

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12621

研究課題名(和文) 副都心新宿の指定避難所をモデルとした災害対策:4W1Hの把握と対策の見える化

研究課題名(英文) The prevention measure of disaster in the evacuation shelter in Shinjuku as a subcenter of Tokyo: The risk management by analyzing 4W1H(Who, When, Where, What, How)

研究代表者

坪内 暁子(Tsubouchi, Akiko)

順天堂大学・医学(系)研究科(研究院)・助教

研究者番号：10398662

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：今回の調査では、これまでの調査結果(坪内、2016年度)に基づいて避難地域の特性を評価し、産学官連携研究プログラムを実施した。本プログラムでは、身体的または社会的なハンディキャップを持つ避難者に対して、3つの主要な目標の設定を目指した；1)安全な避難経路と避難支援の確保、2)避難所での受け入れ基準の確立、3)安全で安心かつ公平な避難所での生活の導入。我々の避難所は、災害時に援助を必要とする身体的および社会的に脆弱な人を優先的に受け入れると結論付けた。本プログラムは、女性団体と脆弱な人々のためのハザードマップの確立につながり、令和元年東京都女性活躍推進大賞(地域部門)を受賞した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域の避難所に指定されている成城中学・高等学校は、私立の中高一貫男子校であるが、私立校の特徴から柔軟性が高くまた学校の裁量権から継続的な研究協力が期待でき、感染症対策等、他の関連課題との相乗効果も見込まれる。さらに、同校と近隣町会とは、約20年前から防災協定を締結するなど強い連携体制にあって、災害時における生徒の自主的協力活動への期待も大きく高い学術成果が望める。しかも、社会基盤の整備を含む総合政策的見地に立っており、成果はそのまま新宿区やその他の都市部の災害対策へと利用が可能である点で社会的意義が高く、社会還元面での有効性と地域包括ケアに類似した災害研究としての高い評価が期待される。

研究成果の概要(英文)：In this study, we evaluated the characteristics of the evacuation areas based on the results of the previous studies (Tsubouchi, FY2016) and conducted the industry-academia-government-private-cooperative research program. We aimed to set up three primary goals for evacuees having physical or social handicaps. 1) Securing a safe evacuation route and evacuation support, 2) establishment of criteria for the acceptance at the evacuation shelters, 3) introduction of safe, secure, and equitable living in the evacuation shelter. We concluded that our evacuation shelter would accept physically and socially vulnerable persons with high priority, who need assistance during a disaster. Our program led to the establishment of a women's association and a hazard map for the vulnerable persons, and was honorably awarded the Women's Empowerment Award (Regional Category) from Tokyo Metropolitan Government for the first year of the Reiwa era.

研究分野：感染症分野並びに災害分野における政策科学

キーワード：リスクマネジメント 感染症対策 災害対策 地域防災 都市型災害対策 地域包括ケア 身体的弱者・社会的弱者支援 実証研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

21世紀以降、急速に進んだグローバル化、IT化、多様化等によって、各国・各分野・各層で問題や歪みが一気に顕在化し始めた。職業・国籍・経済状況・身体的状況・家庭環境等、異なる背景を持つ人々が共存しているのが東京等大都市の共通する特徴であるが、社会的背景や個人情報・プライバシーの保護は災害時ではリスク要因となり得る(佐藤、日本災害情報学会誌、2012)。

熊本地震では、ヒトとモノの流れに関する避難誘導や避難所運営上の弱点が目立つ。また、高齢者や車中避難者が多かったためか震災関連死が疑われる被災者の割合が高く、地震による直接的な死亡者数が50名、さらに、地震発生から50日程度の短い期間に体調を崩す等して亡くなった震災関連死者数が20名(熊本県報告)、9月には、地震の影響で早産となった生後約3週間の乳児の震災関連死認定が報告され、現時点(平成28年10月)では60名と直接死を超えた。人口約13,600万人を抱える東京都では、首都直下型地震予測以降東京防災が配付されたが、具体策は地域や施設に委ねられている。25年度東京都帰宅困難者対策条例施行後も、大手企業の従業員に対する避難や避難所対策でさえ進んでいない状況である(東京商工会議所、28年6月調査報告)。モデル地域の新宿区は、都内で外国人居住者数が最も多い区であるが、外国人数がさらに増加傾向にあり、「新宿WiFi」等のIT化も進んでいる。しかし、10月の池袋・新宿中心に発生した大停電では交通や通信での被害が広範囲でみられ、インフラ面での脆弱性が露呈した。

以上の背景を踏まえ、研究対象地域の特徴を、4W1H(Who, When, Where, What, How)の側面から把握し、対策の見える化を進めることを決めた。

2. 研究の目的

研究の目的は、4W1H(Who, When, Where, What, How)の把握と対策の見える化である。首都型直下地震の震源は大田区と予想され、近隣の新宿区も東日本大震災時に確認された震度5弱を上回る震度、そして甚大なる被害が予想される。しかし、現在も、新宿区の地域連携はあまり進んでいない。モデル避難所地域が最も進んでいると評価されていて、町会役員を中心とした一部の住民の防災意識は確かに高く、町会・学校・行政の連携体制は構築されつつあるが、防災対策は始まったばかりの印象が強い。

モデル避難所は私立中高一貫進学校で、昼間に被災した場合成城避難所の避難者となる生徒は1,000名以上である。その生徒等のいる学校に地域住民が加わり巨大避難所が誕生する。ロケーション的に国内外の観光客が多い新宿歌舞伎町から3キロ圏内に位置するため、特に、IT機能がダウンした状況下では一時避難場所経由で、観光客、ビジネスマン、商業施設利用客、近隣の大学病院等への通院者等、数千人規模の住民以外の避難者が流れ込む危険性が非常に高い。一方、夜間被災では、学校関係者等の支援は期待できないため、もともと身体的リスクが高めで、災害対策で大切な情報収集・情報配信には欠かせないIT機器使用が得意ではない高齢者中心の避難所運営となるため、運営面での混乱や厳しい状況が予想される。いずれにせよ、昼間ともに問題の多い地域であるといえる。

そこで、本研究では、地域の特徴を把握・分析し、避難所運営での優先順位が高いと考えられる身体的または社会的なハンディキャップを持つ避難者に対して、1) 安全な避難経路と避難支援の確保、2) 避難所での受け入れ基準の確立、3) 安全で安心かつ公平な避難所での生活の導入といった3つの仕組み構築を目標に掲げ、3年計画で、実質、産学官民で研究を進めた。

3. 研究の方法

平成29年度

29年度は、本課題のゴール4W1Hの把握と対策の見える化に予備調査の結果を参考にし、適宜、緊急性・優先度の高い順から遂行順序を入れ替える等して、避難・避難所受入れ・避難所生活の3方向からの小目標到達のために、防災覚書(協定)の見直しやマップ等の作成を中心とした概要を進めた。

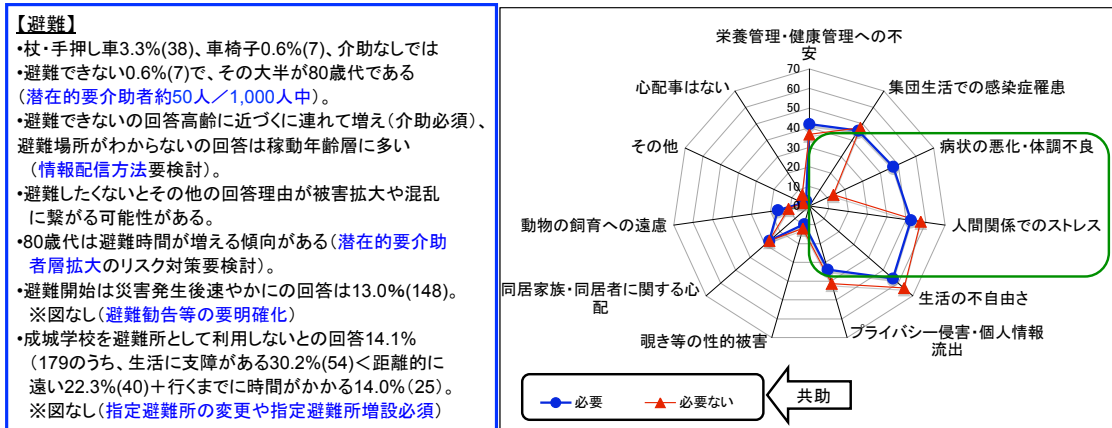
- 地域の特徴の把握と分析の見直し

- 一次災害・二次災害被害想定と行動シナリオの予想・分析
- 災害発生直後からの避難所運営者の行動フローチャート等の見直し(既存ガイドラインと避難所開設キットを含む)
- 想定受入れ対象者である生徒等・住民に向けた情報配信媒体検討

予備調査(28年度)を参考に、地域の特徴や、個人の状況・災害に関する意識と知識等の調査を行い、リスク要因の洗い出しを行なった。Bに関しては主に実態調査によって、その他(ACDE)は、主に、統計データ、地図、新宿区の調査報告と、適宜、29年度に発足させた成城避難所女子会定例会での討論、地域探索や聞き取り調査で、現状把握と統計分析、さらに考察を試みた。

- A) 地理的な特色(地震予測地図での位置関係、地盤の強さ、公園、河川・海・山、トンネル・橋、空港、港、鉄道・地下鉄、高速道路・主要道、建物の老朽化・耐震度(率)、橋、道の広さ・傾斜度、井戸等)
- B) 人に関する特色(昼夜の人口、慢性疾患患者数、障害者数、高齢者数、妊産婦、乳幼児、外国人数、盲導犬・介助犬・ペット数等)
- C) 産業に関する特色(原発、ガスタンク、ガソリンスタンド、工場、高圧線、ホテル、ホール、大型娯楽施設、競技場、運送・運搬業、大型商業施設、飲食店、銭湯、スーパーマーケット・コンビニ、寺院、電波塔、Wi-Fi、公衆電話、大型・高層マンション、等)
- D) 医療体制(病院・クリニックの受入れ可能数、医療者数、福祉施設数、薬局数等)
- E) その他(自衛隊、官公庁、警察署・交番、消防署、刑務所、役所等)

研究遂行にあたっては、特に、避難者の身体的その他の状況や緊急性を踏まえての避難・避難所受入れ・避難所生活支援になるよう、留意した(表:避難上の問題点・図:要支援者の避難所生活での心配事)。健常者に限らず、慢性疾患患者・乳幼児・妊産婦・高齢者等身体的弱者や、障害者等社会的擁護弱者、あるいは言語等外国人が抱える問題やペット同伴避難にも目を向け、情報弱者対策も念頭に、地域社会や地域住民の多様性や個々の特徴を把握・理解・尊重し、何より「命」を一義的に、災害対策の仕組みづくりを目指した。



平成 30 年度、31 年度(令和元年度)

30年度と31年度は、29年度に実施した地域住民の特徴の分析結果を元にして、優先順位の高い避難誘導や避難所運営で大切な以下の3点の項目に関して研究を進めた。

より安全な避難経路の確保

- 避難経路マップの作成(優先経路と代替経路等の選定)

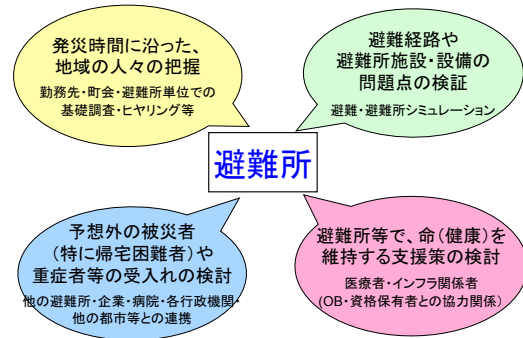
客観的な避難所受入れ判断

- 避難所受入れガイドライン等の作成
- 医療避難所・福祉避難所搬送マップ・帰宅困難者誘導マップの作成
- DMAT等医療者・民間支援者の受入れに関するガイドラインの作成

安心・安全かつ公平性の高い避難所生活での支援

- 新宿区(区民)・私立校(生徒等)・東京都(帰宅困難者)の避難所の棲分けに関するガイドライン作成
- 避難所受入れ・部屋の割当てのための避難所マップの作成

- 支援物資の受入れと分配に関するガイドラインの作成
- 災害備蓄品の分配に関するガイドラインの作成(新宿区(区民)・私立校(生徒等)・東京都(帰宅困難者等)所有物に関する利用取り決め)
- 協力クリニック・薬局紹介・協力施設マップの作成(72時間後の医療避難所・福祉避難所代替策)



以上の、災害対策の見える化を順次進め、研究最終年度の2月に成果物として、受け入れ対象を示し、避難所運営マニュアルや備蓄リスト等の改正の基本とする避難所マップを完成させた。

4. 研究の成果

2017年度(平成29年度):

本課題では、東日本大震災や熊本地震の教訓から、少しでも多くの命を助け、また命を維持していくことを前提としている。住民等に向けた調査の分析、考察の結果、今後の研究の焦点を災害時に支援が必要になる身体的・社会的弱者にしぼった。突然起こった東日本大震災時の避難や避難所運営での問題点や工夫を確認し、その後7年間で構築された仕組み等を、難易度の高い都市型災害対策へと応用していくことを念頭に研究を進めた。特に、高齢者や身体的弱者のリスクを踏まえて、地域に在住・在勤する医療者OB等の支援体制として、急性期・慢性期対応の医療・保健・福祉支援グループを発足させた。それ以降は、各リーダーに研究対象エリア内在住の医師並びに前民生委員に就任してもらい、さらに各組織編成や役割等を固めて行った。

一方、成城避難所防災訓練での演習プログラムの中に応急処置等の内容も加え、他の仕組みとともに試行概要を検討中である。以下は、本研究期間に研究対象地域で実施した(研究会議を含む)事項である;

- 学校と地域の連携強化にむけての、生徒会を巻き込んだ活動
- 地域への情報配信・共有にむけての、災害対策について「伴に」考える研究会定例会拠点を大学から新宿区に移動しての活動
- 他の私立校との連携・協力体制構築
- 女性の目線で考える区の公式協議会と並行して進めている避難所女子会発足
- 地域・学校を伴っての被災地視察・研究会議開催
- 災害時の自助・共助の支援体制強化にむけての、医療支援チームと地域包括ケアチームを発足
- 住民の防災意識・共助の意識を高める目的での防災ポスター等の募集
- 研究分担者・協力者を伴っての役所関係者へのヒヤリング・研究会議・震災遺構視察
- また、研究結果を踏まえて、新宿区並びに成城学校避難所運営管理協議会に提言し、区の避難所運営マニュアルの修正等災害対策に反映させたり、研究概要や提言はテレビ、ラジオ、ネットニュース等メディアでも取り上げられた。

2018年度(平成30年度):

研究期間2年目の30年度は、特に、慢性疾患患者・乳幼児・妊産婦・高齢者等身体的弱者や、障害者等社会的擁護弱者に焦点を絞り、問題解決につながる仕組みを検討した。28年度に実施し、29年度に分析や考察を行った調査結果のうち、一次災害で甚大な被害を引き起こすリスク要因に加え、感染症蔓延等による二次災害や、病状の悪化等による関連死のリスク要因となり得る年齢・疾患・障害等に関連する設問の結果を通して、緊急性×重要性を評価基準として対策にプライオリティをつけ、リスク低減にむけた規約をはじめとする「対策の見える化」、つまり、研究モデルである新宿区やモデル避難所の仕組みに関する提言を政策として反映させることを目指して、昨年に引き続き研究を進めた。主な内容は以下の通りである;1)女子会主催での要援護者対策としてのシミュレーション演習の実施、2)成城学校避難所境界の福祉避難所2施設と公立指定避難所1施設との連携体制開始女子会発議の6つの分科会を成城学校避難所運営管理協議会に内在させる形で組織化、地域連携構築・

地域のリスク低減にむけて活動開始（各分科会ボランティア募集開始）、3)新宿区災害拠点病院との連携体制構築(失敗!)地域のクリニック等医療者からの支援体制、休眠医療者からの支援構築へとつなげていく活動開始→まずは女子会へ(成功!)さらに協議会の分科会で各専門家集団の育成(今後の方向性)、4)情報格差を縮めるための、私立校での防災教育システム策定に向けた教職員への調査実施(1-3月実施、東京5校台北等3校)、5)成城生徒会による、「高齢者にもやさしい避難所体操」制作とDVD作製、6)成城生徒会による地域の特徴・リスクがみえる写真ハードマップ作製中、7)成城生徒会と近隣公立校との意見交換会調整中、8)女子会発議の地域防災カルタの作製中(コロナ等感染症対策も組み込む予定)

2019年度(平成31年度・令和元年度):

1) 私立学校に向けた調査

日本と台湾の私立校8校の教職員を対象に知識と意識に関する調査を実施した結果については昨年度すでに報告済みであるが、約半年遅れであるが、令和元年度に、性格が異なるグループ校3校を抱える京華学園に対しても同じ形式で調査を行うことができたため、日台の調査結果を再分析した。今回の調査は、終息の見通しが立たない新型コロナ肺炎「COVID-19」の発生・流行前にグローバル化を念頭に実施した。特に、感染症関係の設問に焦点をあてて、休校中には生徒の行動についても指導を行わなくてはならない教員の知識や意識について尋ねた。学校保健安全法、感染症法、学校感染症を知っているかの設問では、感染症法に関する知識で、SARS流行の経験を有し、WHOには中国との関係から加盟できないまま、独自に対策を行っている台湾との差異が明らかとなった。また、感染症の影響によって持病が悪化するリスクの知識でも、コロナ発生前の本調査では、日本側は半数が知らない、ほとんど知らないと回答していた。本課題を通して、地震等の災害に加え新興感染症という災害に関する教職員への研修や生徒への教育の重要性を再認識した。

2) 新宿区私立校避難所地域での防災の仕組みづくり

防災教育の面で、女子会や地域包括ケアチームかが窓口となって、身体的弱者や社会的弱者の支援の仕組みの検討や演習の企画や実施等を行っている。また、防災訓練等で、「災害時ほかでの要援護者把握のためのアンケート」で、災害時の心配事や日常の悩み等を書いてもらうなど、手上げ式の行政の災害時要援護者登録をしていない弱者層やその問題点の把握に努めている。さらに、女子会と分科会が手分けをして地域住民に防災学習の機会を提供することで地域全体の防災意識の向上と知識習得に向けて活動している。

その結果、令和元年度東京都女性活躍推進大賞(地域部門)を受賞した。

研究の意義と今後の展望:

避難所となる成城中学・高等学校は、地域活動・多分化共生等を担当する東京都生活文化局の管轄の私立の中高一貫校であり、その特徴から柔軟性が高くまた学校の裁量権から継続的な研究協力が期待でき、他の研究課題(坪内、H28-29年度日本安全教育学会特別研究)との相乗効果も見込まれる。さらに、同校と近隣町会とは、約20年前から防災協定を締結するなど強い連携体制にあって、災害時における生徒の自主的協力活動への期待も大きく高い学術成果が望める。しかも、社会基盤の整備を含む総合政策的見地に立っており、成果はそのまま新宿区やその他の都市部の災害対策へと利用が可能である点で社会的意義が高く、社会還元面での有効性と地域包括ケアに類似した災害研究としての高い評価が期待される。何より、オリンピック開催都市東京の責務として都市部のリスクと問題点の把握は必須であるが、研究モデル避難所地域は都市部にはめずらしく町会制度が今尚生きている地域であって、山手線の東京、品川、渋谷、池袋等への応用によって、安心安全な国際都市創りに役立つことが期待される。

3年間の研究成果を元に、災害用品の産学連携での開発に向けた取り組みをスタートさせた。今年度秋以降には試作品の試行と調査を、地域住民の協力を得て実施する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 14件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 坪内暁子	4. 巻 21(5)
2. 論文標題 災害時の身体的・社会的弱者への支援体制 - 東京山手線内の私立学校避難所の取り組み事例 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング5月号	6. 最初と最後の頁 58-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪内暁子	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 災害リスク低減に向けた情報環境の整備 新宿区における災害対策研究からの提言	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生存科学	6. 最初と最後の頁 83-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤健, 佐々木宏之, 仲田悦教, 向山晴子, 有賀平, 沖山雅彦, 柳澤吉則, Chia-Kwung Fan, 佐伯潤, 大槻公一, 丸井英二, 奈良武司	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 新宿区指定避難所地域の要援護者等のリスク低減に向けた研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生存科学	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤健, 佐々木宏之, 仲田悦教, Chia-Kwung Fan, 佐伯潤, 大槻公一, 丸井英二, 奈良武司	4. 巻 16
2. 論文標題 新宿区の指定避難所 周辺地域における調査結果の考察 情報関連のシステム策定に向けて -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ARIMASS研究年報	6. 最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 坪内暁子、内藤俊夫、土屋陽子、栗原卯田子、村岡信二、土屋勝、金子政己、矢野勝之、仲田悦教、奈良武司、佐々木宏之、佐藤健	4. 巻 19
2. 論文標題 副都心新宿の指定避難所をモデルとした災害対策 - 4W1Hの把握と対策の見える化 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本安全教育学会第19回横浜大会予稿集	6. 最初と最後の頁 75-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yanagisawa Naoki, Muramatsu Takashi, Koibuchi Tomohiko, Inui Akihiro, Ainoda Yusuke, Naito Toshio, Nitta Kosaku, Ajisawa Atsushi, Fukutake Katsuyuki, Iwamoto Aikichi, Ando Minoru	4. 巻 5(10)
2. 論文標題 Prevalence of Chronic Kidney Disease and Poor Diagnostic Accuracy of Dipstick Proteinuria in Human Immunodeficiency Virus-Infected Individuals: A Multicenter Study in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 OPEN FORUM INFECTIOUS DISEASES	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ofid/ofy216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 細田 智弘, 上原 由紀, 藤林 和俊, 横川 博英, 小林 謙一郎, 阪本 直也, 岩淵 千太郎, 大西 健児, 内藤 俊	4. 巻 14(5)
2. 論文標題 HIV合併ニューモンスチス肺炎に対する低用量点滴ペンタミジン投与による副作用の軽減(Reduction of adverse effects by low-dose intravenous pentamidine for HIV-associated Pneumocystis jirovecii pneumonia)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本病院総合診療医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 484-492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 幅 雄一郎, 瀬尾 瑛美, 秋月 光, 加藤 望美, 渡邊 心, 内藤 俊夫	4. 巻 14(5)
2. 論文標題 脱力を主訴に来院しインドメタシン貼付剤による重症薬疹と診断した一例(A Case of Severe Skin Eruption and Weakness Associated with Topical Indomethacin Treatment)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本病院総合診療医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 508-513
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤 俊夫	4. 巻 100(8)
2. 論文標題 【おとなのワクチン】年齢別にみるワクチン 中年以降のワクチン 肺炎球菌	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 925-929
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakano Fumi, Ueno Yuji, Suda Akimitsu, Takanashi Masashi, Yamashita Atsushi, Abe Yoshiyuki, Kon Takayuki, Miyamoto Nobukazu, Yamashiro Kazuo, Tanaka Ryota, Naito Toshio, Yao Takashi, Tamura Naoto, Hattori Nobutaka	4. 巻 391
2. 論文標題 Fatal ischemic stroke caused by cerebral small arteritis in a patient with giant cell arteritis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOURNAL OF THE NEUROLOGICAL SCIENCES	6. 最初と最後の頁 22-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jns.2018.05.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naito Toshio, Yokokawa Hirohide, Watanabe Akira	4. 巻 24(6)
2. 論文標題 Impact of the national routine vaccination program on 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine vaccination rates in elderly persons in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JOURNAL OF INFECTION AND CHEMOTHERAPY	6. 最初と最後の頁 496-498
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 種井 実佳, 横川 博英, 中村 暢宏, 福井 早矢人, 坂本 梨乃, 細田 智弘, 大串 大輔, 内藤 俊夫	4. 巻 14(4)
2. 論文標題 季節性インフルエンザ患者の症状の特徴と診断に関する横断研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本病院総合診療医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 409-409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujibayashi Kazutoshi, Takahashi Hironizu, Tanei Mika, Uehara Yuki, Yokokawa Hirohide, Naito Toshio	4. 巻 6(6)
2. 論文標題 A New Influenza-Tracking Smartphone App (Flu-Report) Based on a Self-Administered Questionnaire: Cross-Sectional Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JMIR MHEALTH AND UHEALTH	6. 最初と最後の頁 e136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/mhealth.9834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ruzicka Daniel J., Imai Kentaro, Takahashi Kenichi, Naito Toshio	4. 巻 8(6)
2. 論文標題 Comorbidities and the use of comedICATIONS in people living with HIV on antiretroviral therapy in Japan: a cross-sectional study using a hospital claims database	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMJ OPEN	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2017-019985	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakamura Nobuhiro, Uehara Yuki, Fukui Sayato, Fujibayashi Kazutoshi, Yokokawa Hirohide, Naito Toshio	4. 巻 57(10)
2. 論文標題 Useful Predictive Factors for Bacteremia among Outpatients with Pyelonephritis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 INTERNAL MEDICINE	6. 最初と最後の頁 1399-1403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.9222-17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobujiro Abe N, Inui A, Yokokawa H, Naito T	4. 巻 14
2. 論文標題 retrospective study of the change in vaccination rate through the introduction of regular pneumococcal vaccination and a check box	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Hospital General Me	6. 最初と最後の頁 275-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jones-Konneh Tracey Elizabeth Claire、Suda Tomomi、Sasaki Hiroyuki、Egawa Shinichi	4. 巻 245
2. 論文標題 Agent-Based Modeling and Simulation of Nosocomial Infection among Healthc	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 231-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.245.231	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Egawa Shinichi、Jibiki Yasuhito、Sasaki Daisuke、Ono Yuichi、Nakamura Yayoi、Suda Tomomi、Sasaki Hiroyuki	4. 巻 13
2. 論文標題 The Correlation Between Life Expectancy and Disaster Risk	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Disaster Research	6. 最初と最後の頁 1049-1061
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20965/jdr.2018.p1049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木宏之、江川新一、阿部喜子、古川宗、藤田基生、岡本智子、坂本博、富永悌二、石井正	4. 巻 42
2. 論文標題 【取り組みもう!BCP災害に備えて】 BCP策定・BCP訓練の実際 東北大学病院におけるBCP	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 救急医学	6. 最初と最後の頁 1856-1863
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 桜井愛子、村山良之、佐藤健、北浦早苗	4. 巻 なし
2. 論文標題 地形図・地形分類図を活用した防災教育プログラムの開発と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018年度東北地理学会春季学術大会要旨集	6. 最初と最後の頁 171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naoki Nakaya, Harumi Nemoto, Carine Yi, Ayako Sato, Kotomi Shingu, Tomoka Shoji, Shosuke Sato, Naho Tsuchiya, Tomohiro Nakamura, Akira Narita, Mana Kogure, Yumi Sugawara, Zhiqian Yu, Nicole Gunawansa, Shinichi Kuriyama, Osamu Murao, Takeshi Sato, Fumihiko Imamura, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa, Hiroaki Tomita	4. 巻 28
2. 論文標題 Effect of tsunami drill experience on evacuation behavior after the onset of the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Disaster Risk Reduction	6. 最初と最後の頁 206-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 佐藤 健	4. 巻 7
2. 論文標題 東日本大震災による南三陸町における医療施設の被害と医療救護活動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域安全学会東日本大震災特別論文集	6. 最初と最後の頁 15-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間友梨、佐藤健	4. 巻 なし
2. 論文標題 災害時要援護避難者数の推定による仙台市の福祉避難所の評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018年度日本建築学会大会要旨集	6. 最初と最後の頁 207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桜井愛子、村山良之、佐藤健、北浦早苗	4. 巻 19
2. 論文標題 学校・地域・行政の協働による地域防災力向上のための防災人材育成モデルの開発～宮城県石巻市における「石巻モデル」構築に向けて～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本安全教育学会第19回横浜大会予稿集	6. 最初と最後の頁 107-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林田由那、佐藤健、桜井愛子、村山良之	4. 巻 19
2. 論文標題 小・中学生の保護者を対象とした学校防災に関する意識調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本安全教育学会第19回横浜大会予稿集	6. 最初と最後の頁 109-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤健、佐藤大介、柴山明寛	4. 巻 19
2. 論文標題 地域に根差した防災教育のための教育史料のアーカイブ化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本安全教育学会第19回横浜大会予稿集	6. 最初と最後の頁 111-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aiko.SAKURAI , Takeshi .SATO, Yoshiyuki .MURAYAMA .	4. 巻 なし
2. 論文標題 Seven Years' Development of Disaster Education Program at Public Schools in Ishinomaki-City, Miyagi, Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Abstract for 11th ACHE INTERNATIONAL WORKSHOP AND EXPO ON SUSTAINABLE TSUNAMI DISASTER RECOVERY2018	6. 最初と最後の頁 29-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤健、桜井愛子、定池祐季、柴山明寛、丸谷浩明	4. 巻 37
2. 論文標題 仙台市における「がんばる避難施設」の社会的意義と東北大学への導入	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第37回日本自然災害学会学術講演会要旨集	6. 最初と最後の頁 183-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takeshi Sato, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, Hitoshi Konno, Masahiro Horino, Risa Yanagiya, and Takahisa Mizoi	4. 巻 13(7)
2. 論文標題 Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction - Katahira-Style Disaster Resilient Community Development -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Disaster Research	6. 最初と最後の頁 1288-1297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 佐藤健	4. 巻 46
2. 論文標題 特集4 災害に強い学校づくりのための施設整備の変遷と残された課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 「教育時評」(学校教育研究所)	6. 最初と最後の頁 21-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤健	4. 巻 なし
2. 論文標題 特別寄稿 これからの防災教育の方向性について～防災教育は郷土を理解し、郷土を愛する教育～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ふくしま放射線教育・防災教育実践事例集	6. 最初と最後の頁 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamashita Y, Nakada S, Yoshihara T, Nara T, Furuya N, Miida T, Hattori N, Arikawa-Hirasawa E	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Perlecan, a heparan sulfate proteoglycan, regulates systemic metabolism with dynamic changes in adipose tissue and skeletal muscle	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 7766
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-25635-x	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiba Tomoo, Inaoka Daniel Ken, Takahashi Gen, Tsuge Chiaki, Kido Yasutoshi, Young Luke, Ueda Satoshi, Balogun Emmanuel Oluwadare, Nara Takeshi, Honma Teruki, Tanaka Akiko, Inoue Masayuki, Saimoto Hiroyuki, Harada Shigeharu, Moore Anthony L., Kita Kiyoshi	4. 巻 1860
2. 論文標題 Insights into the ubiquinol/dioxygen binding and proton relay pathways of the alternative oxidase	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - Bioenergetics	6. 最初と最後の頁 375-382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbabbio.2019.03.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 坪内暁子, 佐藤健, 内藤俊夫, 佐々木宏之, 土屋陽子, Fan Chia-Kwung, 丸井英二, 佐伯潤, 奈良武司, 大槻公一	4. 巻 なし
2. 論文標題 大規模災害時におけるペット同行避難の課題-ペットの多様性で高まる人獣共通感染症リスク-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本安全教育学会第18回宮城大会予稿集	6. 最初と最後の頁 111-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 坪内暁子 (分筆)	4. 巻 なし
2. 論文標題 大規模災害時の被害低減に向けたITの活用-ヒトとモノの流れを変える-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 本環境倶楽部「次世代の情報化と環境問題研究会」報告書	6. 最初と最後の頁 1-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 乾啓洋, 荒井雄太, 小澤明日香, 有賀平, 沖山雅彦, 田中秀夫, 斉藤敦, 仲田悦教, 大槻公一, 佐伯潤, 丸井英二, 佐藤健, 佐々木宏之, 向山晴子, 柳澤吉則, 藤本順介, 飯沼清	4. 巻 なし
2. 論文標題 大規模災害時の被害低減に向けたITの活用-ヒトとモノの流れを変える-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ARIMASS研究年報	6. 最初と最後の頁 197-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坪内暁子	4. 巻 27(2)
2. 論文標題 災害対策での共助の軸となる倫理	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生存科学	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aiko Sakurai , Takeshi Sato	4. 巻 なし
2. 論文標題 Enhancing Community Resilience Through Capacity Development After GEJE: The Case of Sendaishi-chiiki Bousai Leaders (SBLs) in Miyagi Prefecture	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and Restoration	6. 最初と最後の頁 113-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jones-Konneh TEC, Murakami A, Sasaki H, Egawa S.	4. 巻 243(2),
2. 論文標題 Intensive Education of Health Care Workers Improves the Outcome of Ebola Virus Disease: Lessons Learned from the 2014 Outbreak in Sierra Leone	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med	6. 最初と最後の頁 101-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Murakami A, Sasaki H, Pascapurnama DN, Egawa S.	4. 巻 16
2. 論文標題 Noncommunicable Diseases After the Great East Japan Earthquake: Systematic Review, 2011-2016	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Disaster Med Public Health Prep	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Egawa S, Suda T, Jones-Konneh TEC, Murakami A, Sasaki H	4. 巻 243(1)
2. 論文標題 Nation-Wide Implementation of Disaster Medical Coordinators in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Bautista-Lopez N, Ndao M, Camargo F, Nara T, Jardim A, Annoura T, Hardie D, Borchers C.	4. 巻 55
2. 論文標題 Characterization and diagnostic application of Trypanosoma cruzi trypomastigote excreted-secreted antigens shed in exosomes released from infected mammalian cells	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Clin Microbiol	6. 最初と最後の頁 744-758
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Inaoka DK, Iida M, Hashimoto S, Tabuchi T, Kuranaga T, Balogun EO, Honma T, Tanaka A, Harada S, Nara T, Kita K, Inoue M	4. 巻 25
2. 論文標題 Design and synthesis of potent substrate-based inhibitors of the Trypanosoma cruzi dihydroorotate dehydrogenase	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Bioorg Med Chem	6. 最初と最後の頁 1465-1470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Hsu Shao-Lun, Chang Howard, 奈良 武司, 坪内 暁子, Fan Chia-Kwung
2. 発表標題 Emerging or re-emerging parasitic diseases in Taiwan by retrospective study from clinical cases during 2001-2017
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪内暁子、佐藤健、内藤俊夫、土屋陽子、佐々木宏之、向山晴子、奈良武司、土屋勝、栗原卯田子、村岡信二、金子政巳、新宿区榎町特別出張所、矢野勝之
2. 発表標題 被災時の医療・保健・福祉支援体制の検討 副都心新宿の指定避難所運営管理協議会 との連携で進める災害対策づくり
3. 学会等名 東北大学災害科学国際研究所平成29年度共同研究成果報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪内暁子、内藤俊夫、土屋 陽子、佐藤健、佐々木宏之、奈良武司、栗原卯田子、村岡信二、土屋勝、金子政巳、矢野勝之、仲田悦教
2. 発表標題 副都心新宿の指定避難所をモデルとした災害対策 - 4W1Hの把握と対策の見える化 -
3. 学会等名 日本安全教育学会第19回横浜大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sebastien BORET, Hiroyuki SASAKI
2. 発表標題 Managment Mass Fatality during the Great East Japan Earthquake and Tsunami - The experiences of two coastal municipalities.
3. 学会等名 DEATH IN TIME OF CRISIS, FUNERALS IN CRISIS (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 東日本大震災被災地DMATとしてみた平成28年熊本地震の現場
3. 学会等名 第55回日本腹部救急医学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須田智美、佐々木宏之、江川新一
2. 発表標題 東日本大震災後の南三陸町における病院外の医療ニーズ解析最終報告
3. 学会等名 第24回日本災害医学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki Sasaki, Erick Mas, Shunichi Koshimura, Shinichi Egawa
2. 発表標題 Relation Between the Damage of Medical Institute in Miyagi Prefecture Due to the Great East Japan Earthquake and Tsunami and the Occurrence of Preventable Disaster Death (PDD) at Medical Institutions
3. 学会等名 Asia Oceania Geosciences Society 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 大学病院におけるBCPの策定と改訂
3. 学会等名 第46回日本放射線技術学会秋季学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroyuki Sasaki
2. 発表標題 Relation between the Hospital Damage due to Great East Japan Earthquake and Tsunami and the occurrence of Preventable Disaster Death (PDD) at hospital in Miyagi Prefecture
3. 学会等名 Tohoku-Tsinghua Joint Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 東北大学病院BCPの維持・管理と今後の課題
3. 学会等名 IRIDeS 第3回実践的防災学シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. SAKURAI, T. SATO, Y. MURAYAMA.
2. 発表標題 Seven Years' Development of Disaster Education Program at Public Schools in Ishinomaki-City, Miyagi, Japan.
3. 学会等名 11th AIWEST-DR2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤健、桜井愛子、定池祐季、柴山明寛、丸谷浩明
2. 発表標題 仙台市における「がんばる避難施設」の社会的意義と東北大学への導入
3. 学会等名 第37回日本自然災害学会学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤健、柴山明寛、桜井愛子、増田聡
2. 発表標題 仙台市地域防災リーダーによる地域に根差した防災活動
3. 学会等名 第15回日本地震工学シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山良之、佐藤健
2. 発表標題 東日本大震災の経験と地域の条件をふまえた学校防災教育モデルの創造-石巻市復興防災マップづくり-
3. 学会等名 2019年度日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤健, 佐々木宏之, 奈良武司, 向山晴子, 土屋勝, 栗原卯田子, 村岡信二, 金子政巳, 矢野勝之, 仲田悦教
2. 発表標題 新宿区の指定避難所周辺の調査報告
3. 学会等名 危機管理システム研究学会2017年度年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪内暁子, 佐藤健, 内藤俊夫, 佐々木宏之, 土屋陽子, Fan Chia-Kwung, 丸井英二, 佐伯潤, 奈良武司, 大槻公一
2. 発表標題 大規模災害時におけるペット同行避難の課題 - ペットの多様化で高まる人獣共通感染症リスク -
3. 学会等名 日本安全教育学会第18回岡山大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪内暁子, 佐藤健
2. 発表標題 被災時の医療・保険・福祉支援体制の検討副都心新宿の指定避難所運営管理協議会との連携で進める災害対策づくり
3. 学会等名 東北大学災害科学国際研究所平成28年度共同研究成果報告会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坪内暁子
2. 発表標題 避難所運営で必要な感染症の基礎知識
3. 学会等名 株式会社 i - t e c 24第44回防災コミュニティ研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 より迅速に、確実に災害時の「健康」と向き合うために～東北大学病院BCP策定へのステップ～
3. 学会等名 東北大学災害科学国際研究所東日本大震災7周年シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 災害医療のヒミツ～緊急時の医療が大進化！～
3. 学会等名 東北大学片平まつり（東北大学片平まつり実行委員会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木宏之
2. 発表標題 がん診療と大規模災害 ～東日本大震災の経験から、徳島の未来に貢献できることを考える～
3. 学会等名 徳島県立中央病院県民公開講座
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 佐藤 健	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 568
3. 書名 「教育現場の防災読本」第1節 学校と教師の役割	

1. 著者名 奈良武司監訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 メディカル・サイエンス・インターナショナル	5. 総ページ数 3,132
3. 書名 ハリソン内科学第5版（原著第19版）	

1. 著者名 奈良武司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三輪書店	5. 総ページ数 462
3. 書名 原虫症および寄生虫症．臨床微生物検査ハンドブック第5版	

〔出願〕 計0件

〔取得〕 計1件

産業財産権の名称 トリパノソーマ関連疾患治療薬，トリパノソーマ原虫の殺虫方法およびその利用	発明者 奈良武司，橋本宗明，御子柴克彦	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、6245570	取得年 2017年	国内・外国の別 国内

〔その他〕

順天堂大学研究者情報データベース (坪内暁子)
<https://www.juntendo.ac.jp/graduate/kenkyudb/search/researcher.php?MID=884>
 順天堂大学研究者情報データベース (内藤俊夫)
<https://www.juntendo.ac.jp/graduate/kenkyudb/search/researcher.php?MID=2529>
 東北大学災害科学国際研究所災害医療国際協力学分野 (佐々木宏之)
<http://www.irides-icdm.med.tohoku.ac.jp>
 東北大学災害科学国際研究所災害復興実践学分野 (佐藤健)
<http://drdm.irides.tohoku.ac.jp/>
 医療創生大学薬学部薬学科 (奈良武司)
http://www.isu.ac.jp/department/staff/detail.html?nara_takeshi
 researchmap (坪内暁子)
https://researchmap.jp/Risk_management_AT59

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内藤 俊夫 (Naito Toshio) (10365570)	順天堂大学・医学部・教授 (32620)	
研究分担者	土屋 陽子 (Tsuchiya Yoko) (90637414)	順天堂大学・保健看護学部・講師 (32620)	
研究分担者	佐々木 宏之 (Sasaki Hiroyuki) (90625097)	東北大学・災害科学国際研究所・准教授 (11301)	
研究分担者	佐藤 健 (Sato Takeshi) (90290692)	東北大学・災害科学国際研究所・教授 (11301)	
研究分担者	奈良 武司 (Nara Takeshi) (40276473)	医療創生大学・薬学部・教授 (31603)	